

原子力国際人材養成 試行コースについて（開催報告）

原子力人材育成ネットワーク 事務局
 （日本原子力研究開発機構 原子力人材育成センター）
 生田 優子

原子力人材育成関係者協議会最終報告書、福島原子力発電所事故を受けてのネットワーク提言等により、『国際的視野を持ち、世界で活躍できる高い資質を有する人材の育成』の必要性が指摘されている。これらを受けて、原子力人材育成ネットワークの国内人材の国際化分科会において国内人材の国際化のための養成コースの実施を検討し、既に上級者向けに開催されている IAEA マネジメントスクールや世界原子力大学の夏季研修参加に繋がるステップとなるよう、平成 24 年 12 月 10 日(月)～12 月 14 日(金)にかけて、試行として“Capacity Building of Young Nuclear Professionals -First in the Series: Communication on Fukushima-” コースを開催した。

今年度は、特に課題となっている中長期的に国際原子力人材を拡充するため、幅広い原子力関係者を対象とし、研修生に英語を勉強する「動機付け」、「キャリアデザイン」、「長期的な学習の方向付け」を与えることを目的とし、カリキュラム内容は一部のセミナー等を除き、質疑応答も含めて全て英語で行い、半分以上を少人数グループによるディスカッション、プレゼンテーションの時間とした。

参加人数は 16 名（社会人 13 名、学生 3 名）、5 日間の短期コースではあったが、研修生の積極的な参加を求めるプログラムが多かったためか、連日活気に溢れ、それぞれの専門外の原子力分野を学ぶ意味でも、英語を学ぶ意味でも、密度の濃い時間が提供できたと考える。また、研修生へのアンケートでも、コースは刺激的で、国際的なキャリア設計への関心や英語学習の強い動機づけの機会になった、という回答が得られている。更に、ネットワークで実施したメリットとして、普段はなかなか触れることのできない他業種の人との協力・意見交換、あるいは社会人と学生が一堂に集う場を提供したことで、これからの原子力の将来を担う若い人材のネットワークの構築の一助となったことがあげられる。

本報告会で、実施カリキュラム、開催状況、研修生へのアンケート結果等について紹介する。



記念撮影

会場（JAEA 原子力人材育成センター）前にて



プレゼン資料作成